第 35 回東海関西学生グライダー競技会

四年生 松本 眞奈美

2015年10月31日～11月8日の日程で大野滑空場にて、第35回東海関西学生グライダー競技会が行われ、今年は4年生の井上翔太と松本の2人チームで出場となりました。

私にとって最初で最後の東海関西戦です。来年3月の全国大会の予選も兼ねており、10チーム中上位7チームが出場権を手に入れます。7位のボーダー付近はきっと精神的にしんどいだろうから、私は必ずほかより得点を稼ぎ上位チームを維持したいと考えていました。また、今回から場所をいつもの木曾川から大野へ移し、通年ありがちだった滞空点勝負でなく大会らしい競技ができることも期待されていたため、巡ってくるチャンスを確実に点数にしようという強い気持ちを持って大会に挑みました。

1日目

練習日。井上と私とで一発ずつのフライトでチェックをパスし、翌日の競技開始に備えてコンディションを整えました。翌日からの競技機体はASK21が2機、ASK23が4機の6機体制です。

2日目

開会式を行い、南向き発航に切り替えたのち競技が開始しました。大野の南向き発航時は場周経路が特殊なため、ASK13も用いた複座3機で同乗でのみの競技となります。この方式のつらいところは、使用機体が少ないため条件が出たときに発航順が回ってきたチームが有利になってしまうところです。実際にこの日は、弱いサーマルで滞空点を獲得するチームがある中、同志社に発航順が回ってくる頃には空が沈静化していました。浮いている機体を地上で歯がゆい思いで眺めながら、

大会前から固めていた“チャンスを逃さない”精神をより強くしました。

3日目

雨のためノーコンテスト。

4日目

この日は、北向き発航で競技を開始した10時の時点で条件が出始めていました。同志社に回ってきた最初の1発で井上が早速サーマルを捉え、活性化するまで粘ったのち950mまで高度を獲得して第一旋回点の大野町役場をクリアしました。このまま今大会初の周回もと見込みましたが、針路を取った権現山上空は強風の影響が大荒れで、平地に戻ってきて上げ直すも第二旋回点には届かずワンポイントクリアで帰投しました。

次の発航順は私が飛びました。大野は上空の変化が目まぐるしく、井上が上がったときは状況がすっかり変わり、風は強くなりつつも気流がやや安定し始めている中にサーマルが点在していました。風下寄りのトリガーサーマルを掴み、700mまで上げたのは良かったのですが機体が流されるレートも大きく、良いラインを選択し失高を抑えながら風上に戻って上げ直すことに。最初は600m以上を維持できましたが、サーマルは消えかけていて役場には届かず、別の場所でゲインしたチームがワンポイントクリアする無線を悔しい気持ちで聞きながら、滞空点に甘んじて帰投しました。

このあとバッタフライトが続いたのち、競技終了40分前の同志社最後の発航順で井上がフライトしました。このとき上空はほぼ沈静化しており他の機体は良くても粘る程度で、今日は名大Aチ

ームの唯一の周回がデイリーかと半ば諦めていた中、井上は他チームが探しに行かなかった風上ギリギリまで伸ばしたところプラス4とコアの強いサーマルを当てました。競技終了が迫っていたため急旋回で一気に850mまで高度を上げて第一旋回点をクリア。風も弱まってきて今度の権現山は良いラインができており、失高も少なく第二旋回点の脛永橋もクリアしました。ファイナルグライドは150km/hまで増速し一気にゴール。周回タイムはなんと21分！他チームの周回の半分以下の時間と圧倒的でした。

この日は大会を振り返って一番のビッグデーでした。この日1000点を獲得できたことはチームにとって非常に有益であり、さらに、最も上空が活性化した時間でなく、誰もが予想していなかった競技終了間近で逆転劇を見せてくれた井上はまさにエースでした。

一方私は、離脱後の高度があるうちに流されることも考えて風上寄りでサーチしないとポジション取りを悪くするという、初歩的なミスを大会の大事なときに犯してしまい反省の一日でした。もしこの日周回、もしくはワンポイントでも達成できていれば個人順位が上がっていたことは本当に悔やまれます。

5日目

朝に北向き発航でクルーフライトをした後、南風が入ったためピス交してから競技開始でした。この日は条件の出始めが正午前と前日より遅く、少ないチャンスでどれほど稼げるかの勝負でした。条件の出始めで昨日抜いた名大Aチームがまたしても周回し、強さを実感。負けじと井上が飛び、期待どおり870mまでゲインして脛永橋をクリア

しました。しかしそのあと役場方向に針路を取るも状況が悪く、権現山上空で600mを割った辺りで一度R/W方向に戻り、上げやすい場所を探りましたが何もなく無念の帰投。体感として大野（に限った話ではないですが）はプラスとマイナスの時間を周期的に繰り返しており、プラスの周期の終わりで上がった場合はこのような状況に陥りやすいのではないかと思います。

そのあとの発航は井上与相談し、私がフライトすることに。探りを入れた最初の場所でサーマルを当て、コアを逃さないよう旋回半径を小さくして対地旋回でゲインしました。1050mまで上げ脛永橋をクリアし、高度のあるうちにセカンドサーマルを繋いで役場を目指そうと試みましたが、探った場所はどこも渋いサーマルしかなく、結局はR/W付近のいつもの場所まで戻って上げ直すしかありませんでした。上げきれず私もまた無念の帰投。これがこの日最後の同志社のフライトとなりました。

2人して脛永橋→役場を成せなかった要因として、R/Wから離れた場所のサーチポイントの選択肢が少ないという勉強不足があったと思います。名大Aチームとの差のひとつがここで出てしまったのではないかと感じました。

6日目

クルーフライトの後南向き発航で競技開始。快晴にも拘わらず大きな条件は出ず、滞空点勝負の一日でした。

午前のバツフライトのあと、井上が弱いサーマルに当たり11分滞空しその日最初の滞空点を獲得。もう一度と続けてフライトし、13分滞空して滞空点3点で下りてきました。

次の発航順は滞空点を重ねるために、私に交代しました。最初の1発はその日のセカンドデリーを獲得した機体が上がり始めたときで、セパレーションを取るために迂回せざるを得ず帰投。次の同志社最後の発航順は、運の良いことにこの状況で強いと思われるASK13が回ってきたので、最後のチャンスと思い絶対に浮いてやると出発しました。最初のサーマルは渋く高度維持しかできなかったためポジションを変え、セカンドサーマルでゲインし450mまで上げましたが、そこで風に流されプラス帯を逃してしまい、戻るも何もなく沈下に叩かれ帰投しました。飛行時間は23分で13点のフライトでした。

7日目

北向き発航でクルーフライトのあと、定刻に競技を開始するも状況は前日よりさらに渋く、終日ほぼバツでした。他チームの粘りのフライト5点のみがこの日の得点でした。

8日目

朝から曇天で、競技開始の時点で条件が見込めなかったのですが、翌日が雨予報だったこともあり下位3チームがしばらくバツフライトする状況が続きました。昼過ぎに全チームの合意により競技終了し、クルーフライトしたのち撤収しました。この日は全チーム無得点でした。

9日目

予報通り雨が降りノーコンテスト。午後から閉会式を行い、大会終了となりました。

結果

【個人】

- 優勝 守法亮介(名古屋A) 1639.7
- 準優勝 井上翔太(同志社) 1168.2
- 3位 斉藤将太(大阪工業) 307.6
- 4位 松本真奈美(同志社) 192.2
- 5位 縣和弘(名古屋B) 166.2

【団体】

- 優勝 名古屋大学A 1780.1
- 準優勝 同志社大学 1360.4
- 3位 大阪工業大学 307.6
- 4位 京都大学 195.0
- 5位 名古屋大学B 188.2
- 6位 立命館大学 80.0
- 7位 関西大学 72.8

後悔反省は各々ありつつも、まずは2人とも良い成績を収め、無事全国大会へ進出できることが嬉しいです！しかし全国に行きたい思いはどのチームも強く持っていたと思います。予選落ちするチームが必ずいるという当たり前を、スポーツの世界の厳しさとして実感しました。そして昨年度井上が味わったであろう辛さを思い、改めてこの結果を喜ばしく感じます。

この大会を通してフライトの強みと弱点、チームとしてどう動いていくかをよく考えさせられました。全国大会に向けて考え、経験したいことは山積みです。少しでも強くなれるよう、準備を怠らないで全国までの時間を過ごしたいと思います。

最後になりましたが、ご指導いただいた教官、大会中支えてくれたクルーのみんな、応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。